

11 港町・清水で鮮度抜群の野菜が食べられる！？

生産者と購入者を結びつける「やさいバス」は県内外を走る

静岡県・静岡市清水区 | 清水銀行

静岡県を縦断し、山梨県・長野県を貫き、上州越自動車道と接続して新潟県まで繋がる中部横断自動車道と、静岡県を横断する新東名高速道路の整備が進められ、グローバルな物流経済拠点として更なる発展が期待される静岡市清水区。この交通・流通網を活用した「やさいバス」をはじめとする清水銀行の越境ビジネスマッチングの取組みに迫ります！



港町・清水に鮮度抜群の野菜！？

港町・清水のとある街角の野菜売り場。食べてみると、トマトは見るからに真っ赤で味も濃くてみずみずしく、舞茸は調味料に負けないくらい香りが強い。グリーンリーフは密度があり、葉の味がしっかりしている。小松菜はガス火に負けず、茹でても炒めてもシャキシャキ。なるほど、多少割高にもかかわらず、目の前でみるみる売れていくわけだ。

どうして港町・清水に鮮度抜群の野菜を並べることができるのか。売り場をよく見ると、かわいらしいバス停のPOPが目に入った。どうやらここに秘密があるようだ。



「松坂屋 静岡店」



「マックスバリュ東海 三保店」

静岡市清水区の概要

- 【人口】226,914人(2023年5月31日現在)
- 駿河湾に面し、天然の良港・清水港の発展とともに、東海道の宿場町として栄えてきた清水区。水揚げ日本一を誇る冷凍マグロ、駿河湾で獲れるシラスや桜えびは海の幸に恵まれた町ならではの味だ。清水港に隣接する魚市場「いちば館」や「まぐろ館」(食事処)は平日でも賑わいを見せている。
- 言わずと知れたサッカー所。カスこ三浦知良選手などの世界で活躍する有名選手を多数輩出し、Jリーグの名門「清水エスパス」の本拠地。国民的アニメ「ちびまる子ちゃん」の舞台でもあり、誰もが見たことのある風景が目前に広がる。
- 富士山を眺めるなら、「三保の松原」、「日本平」や「薩埵峠」がおすすめ。特に、天女伝説の舞台で、歌川広重の浮世絵にも描かれた「三保の松原」は、約7kmの海岸に約3万本の松が生い茂り、松林の緑、打ち寄せる白波、海の高さと富士山が織りなす風景は圧巻。2013年、富士山世界文化遺産の構成資産に登録。

ることで、無理・無駄をなくすことができる。「やさいバス」の登場は高齢化する生産者にとっても朗報だ。高齢の生産者は、市場や売場に農産物を届けられなくなっており、「やさいバス」が農産物を直接買い取ることで、安心して生産してもらうことができる。



「誰もがおいしい食をあたりまえに手に入れられる社会を目指して」をコンセプトに、新鮮な農産物を届ける仕組み。(やさいバス側のパンフレットより)

清水銀行との業務提携で事業拡大

静岡市清水区に本店を構える清水銀行。長野県南佐久郡川上村の「朝採りレタス」の販路拡大、静岡県内の流通を相談されていたが、これが「鮮度が命」のやさいバス側のコンセプトと合致。2020年10月、清水銀行は、やさいバス側と金融機関初の業務提携を行い、「朝採りレタス」の生産者とやさいバス側をマッチング。実証実験を経て、長野県の新鮮なレタスが静岡県へ届けられた。



長野県南佐久郡川上村から静岡県に運び込まれる「朝採りレタス」。すぐに茶色になるレタスのおしりが、真っ白なのが新鮮な証。(清水銀行提供(以下、未記載は同様))

やさいバス側は、静岡県や静岡市による県内農業の活性化や県内生産物の商流拡大を目的としたプロモーション事業にも名乗りを挙げており、清水銀行も同社と自治体の連携を積極的にサポート。農家に購入者の紹介、清水銀行支店の敷地内へバス停を設置するなどの支援を行っている。



清水銀行富士支店敷地内で賑わう「やさいバス」のバス停。

野菜の次は鮮魚！

実証実験では、長野県からレタスを運んだトラックに、清水港などの鮮魚を載せて帰ってもらうことに。しかし、水産物のトラックへの臭い移り等が課題で、この狙いはうまくいかなかった。だが、収穫もあった。川魚文化の長野県で、鮮魚や海産物のニーズが想像以上であった。



清水からの鮮魚が、長野県であっという間に売れていく。

そこで清水銀行は、2023年1月、長野県で「スーパーえちごや」を運営する側越後屋の紹介を日本政策金融公庫(以下、日本公庫)から受け、また、静岡・長野両県に営業拠点のある丸松水産側の紹介を静岡県から受け、両社をマッチング。静岡県の鮮魚や海産物を長野県へ供給するルートが構築された。続いて、同年7月、日本公庫からの紹介で、長野県で「スーパーマーケット NANA'S」を運営する側ナナーズと丸松水産側とをマッチングし、静岡県の鮮魚や海産物の販売等を実施。さらに、同年9月には、日本公庫と、静岡県、山梨県、長野県における広域ビジネスマッチングによる事業者支援の連携を開始した。

日本政策金融公庫における越境の複数支店での広域連携は全国【初】



全国に飛躍する「やさいバス」

「やさいバス」は、静岡近隣県に留まらず、各地に進出。2022年11月からは愛媛県でも始動。これは、清水銀行による直接的なビジネスマッチングではないものの、清水銀行が全国の地方銀行とのネットワークを利用して紹介したことがきっかけで実現した。清水銀行の越境ビジネスマッチングの取組みは、中部横断自動車道が繋ぐ緑で、山の洲(くに)(静岡県・山梨県・長野県・新潟県)との連携強化を掲げる静岡県とともに拡がりを見せている。その先には、新潟県や石川県への拡大も見据える。清水銀行は、頑張る地元企業の県外進出を後押しする。地元産品を交流する架け橋となり地域経済の活性化に貢献し、この取組みを更に推進・拡大していきたいとしている。

Column

今日も「やさいバス」が絶賛運行中！

全国15都道府県で運行中の「やさいバス」。静岡県では、平日・土曜日に運行していて、4ルート(東部・中部・中西部・西部ルート)、計63か所のバス停(集配所)がある。その日のうちにお届けするため、配送エリアは約40km範囲。

例えば、「マックスバリュ東海 三保店」では、週3日、「やさいバス」で新鮮な野菜が届く。常時、十数種類を取扱い、だいたい2日で完売するそう。特に、年間を通じて定期的に供給されるグリーンリーフと小松菜が売れ筋とのこと。マックスバリュ東海が「やさいバス」の商品の取扱いを始めて3年目。取扱店舗は、当初の4か店から12か店に拡大しており、「やさいバス」の運行はこれからも増えそうだ。



実際に、注文した野菜が「やさいバス」のバス停に届く様子(左)と、野菜を受け取る様子(右)。

盛況！静岡の鮮魚と海産物の商談会

側越後屋と丸松水産側のビジネスマッチングにより長野県東信地方で構築された配送網の更なる活用・販路拡大を目指して、清水銀行は、2023年11月、日本公庫と共催で、長野県で越境ビジネスマッチング商談会を開催。静岡県も補助金を出し、静岡県産水産物の紹介・提案を行い、金融機関と行政が積極的に関与。

商談会には長野県東信地方のスーパーマーケットやホテル、飲食店等総勢15社が参加。もともと、この地域の既存の仕入れルートは日本海側や東京からが中心で、品数も少なかったことに悩んでいたとこのことで、7社で商談が成立したとのこと。



商談会の様子(午前の部・午後の部の2部制で開催)。見て・聞いて・食べてみる。実際に静岡県から運び込まれた水産物を見て、どのような状態・鮮度で配送してもらえるのか分り、納得の参加者たち。水産会社の説明にも熱が入る。



これをビジネスチャンスにしたのがやさいバス側が展開する「やさいバス」だ。こだわりは「鮮度」。同社は、新鮮・完熟で収穫されたその日のものを、その日のうちに食卓へ届けることを目指し、農産物の共同配送システムと受発注を一体としたWebサイトを運営。スタッフが直接、生産者の声を聞き、農園を見て、農産物を吟味。扱う農産物は、できるだけ地元のもの、地域のものが基本だ。小売店や料飲店は必要な分だけ予約注文し、「やさいバス」で農産物を共同搬送す

中部横断自動車道 特設サイトより